

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830036		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホームほうすい1		
所在地	福島県西白河郡矢吹町北町85番地		
自己評価作成日	令和3年7月2日	評価結果市町村受理日	令和3年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物の平屋の構造を生かし利用者様が1, 2ユニット自由に行き来でき他利用者さまとの交流を深めております。毎月の行事等も合同で行い楽しませております。職員も1, 2ユニット全職員で朝、夕の申し送りを行い理念を唱和し両利用者様の状態把握をし支援を行っております。地域に密着し隣にある保育園児との交流をしております。現在コロナにより面会制限をしておりますがリモート面会を行いご家族様と利用者様が顔を見て安心されお話をし喜んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.毎月、法人本部担当者によるリモート面談と管理者面談を行い、情報や課題の共有を行っている。またスタッフ会議では十分話し合いの時間を設けて職員の意見要望を多く聞き取るように努めている。出された意見等は、事業所運営に反映させ全職員が連携して支援を行えるよう取り組んでいる。
 2.消防訓練は、コロナ禍で地域住民や消防団の参加協力を得ることができないが、年2回消防署立会の総合訓練と年間計画による自主訓練を実施している。また、居室出入口に紙の花を下げ、花を外すことで利用者の避難状況を確認している。職員連絡網には区長の電話番号も記載し、協力いただける環境を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、ホームの理念、ホームの目標を毎朝申し送り時に復唱し理念に向けたケアを実践に繋げている。	事業所の理念を基に目標を作成し、年度末に会議で話し合いをし見直しをしている。また、理念と目標を朝夕の申し送り時に唱和し、共有して利用者支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為実施できていないが利用者と一緒に地域行事に参加し2ヶ月に一回地域の方々に防災訓練に参加して頂いている。又、近所の保育園の職員との連絡が密で子供達を連れて来られ入居者様と交流している。	町内会に参加しているが、コロナ禍のため地域との交流や行事は中止となっている。以前は、事業所に隣接する保育園児が遊びに来ていたが、現在は毎日の散歩時に窓際を通る配慮をしていただき、窓越しに園児の顔を見ることが利用者の喜びになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為実施できていないが運営推進会議の場で近況報告をしており、症状の説明や支援内容を説明し理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナの為実施できていないが、2ヶ月に一回入居者様、御家族様、地域の方々、ホーム職員とで開催しホームで予定している行事や近況報告をしている。地域で予定している行事等教えて頂き参加できる体制作りを努めている。	コロナ禍により開催できないため、職員間で会議を開き、メンバーへ書面で情報を報告し、アンケートを同封し率直な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会、地域包括支援センターと密に連絡を取り合いホームの活動状況や利用状況の報告などを行い後日意見を頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者は、事業所の状況報告や相談を町役場担当課へ直接出向き、協力関係を築く取り組みをしている。また、役場担当者は、運営推進会議メンバーに入っており、情報共有ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人では身体拘束を行わない取り組みを行い研修等に参加し全職員に伝達している。玄関の施錠はもちろん、言葉掛けにも日々気をつけている。身体拘束適正化検討委員会を設けており3ヶ月に一回開催している。	法人の身体拘束等の適正化の指針に基づいて定期的に委員会を開き、会議録や職員のチェックシート結果、必要な事案を法人本部へ報告している。また、定期的なチェックシートでの自己点検や内部研修を重ね、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し現場での利用者様に虐待が見過ごされていないか注意を払い何かあれば職員間や管理者に報告し注意できる関係ができています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度についての研修に参加している。それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人や御家族様に十分な説明を行い納得して頂いて契約している。解約の際にも丁寧に説明することに心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や御家族様の意見や要望など言いやすい雰囲気を作っている。意見や要望等はスタッフ会議にて検討し改善に取り組んでいる。	利用者との日々のふれあいの中から、意見や思いを聞くよう心掛けている。また、現在、コロナ禍により直接面会が出来ないため、管理者が、各家族へ月2回電話し、利用者の生活の様子を報告と共に家族からの意見を聞き、得た意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員が意見を言いやすい環境を作っている。スタッフ会議での意見や提案をする機会を作り定期的な面談も行っている。法人では定期的な面談を行い事業所の状況を把握している。	毎月のスタッフ会議に時間を掛け、月1回の管理者面談や法人本部担当者によるリモート面談、日々の業務の中での会話などから意見要望を聞く機会を多く設け、職員からの意見要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では管理者や職員個々の能力や実績、勤務状況を把握し家庭環境に応じたシフト調整を行い働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での年間計画にて職員の力量に合わせ研修や外部研修など積極的に参加し、働きながらスキルアップできるよう進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為外部研修、内部研修が実施できていないが、同業者と交流できる機会があり情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人に合った入居方法を考えている。家族とも連携を取り安心して過ごして頂けるよう信頼関係の構築に努めている。また本人の要望を必ずお聞きしプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居手続き時に御家族様が困っていることや不安に思うことは無いか必ずお聞きしている。又、入居前に密に連絡を取り良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族様、転居前に施設職員等に情報収集を行い「その時」何が出来るか、何が必要かを知り支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体性を尊重したケアを心掛けている。職員が知らない事を教えて下さったり、食器拭きや洗濯物たたみなど協力して下さったりと暮らしを共にすることが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回お便りで近況報告をするほか、本人の体調に変化があった際はその日のうちに電話連絡を行っている。行事時はお知らせし多くの御家族様に参加して頂ける様関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為ガラス越しでの対面、電話での会話対応を行っている。入居前に関わりのあった馴染みの方が来訪されることもある。	コロナ禍により外出・面会が出来ないが、家族との関係が途切れないよう、家族と窓越しに顔を見ながら電話で会話を楽しんでいる。また、当初リモート面会は不慣れであったが、気軽に遠方の家族と話ができる利点もあり喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、面倒見の良い人などが隣になるような席を配慮している。ホーム内での行事やレクリエーションを行い利用者同士関わり合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も必要に応じて御家族の相談や支援が出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや意向を確認、本人の言葉で確認が困難な場合御家族と話し合い本人にとって必要な支援を検討している。	日々の関わりの中で、丁寧に話を聞き一人ひとりの意向や希望の把握に努めている。困難な場合は、本人の思いや意向を職員間で話合うほか家族へ電話し意見を聞く等、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴の情報や日々の会話から本人を理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を確認し申し送りノートを活用共有している。毎日のバイタル測定で体調の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い本人、御家族の意向を聞いている。その他にも課題や検討が必要な時にはカンファレンスを行い現状に即した支援が出来るようにしている。	入居時、1カ月分を目途に介護計画を作成し、その後、3カ月毎に見直しをしている。また、居室担当者が利用者のモニタリング状況をまとめ、管理者が電話で家族の意見を聞く等し、サービス担当者会議で見直しをしている。状況に変化が有る時は見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り記録の情報を共有し日々の変化などを記録し介護計画の見直しを反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の意向や現状を把握し柔軟な支援やサービスができるようサービスの必要性を検討するよう考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナで制限があるが地域との交流の場が多く持てるよう心掛けている。(行事、ボランティア等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院は御家族の協力を頂き行っている。本人の状況や御家族様の意向により訪問診察も受ける事ができる。	入居時に本人・家族と医療受診先について話し合っている。かかりつけ医希望者は、家族の協力を得て通院している。また、協力医の訪問診療を選択している家族には、受診結果を電話で報告し、情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時は利用者の健康状態を伝え看護を受けている。助言を頂いたり変化がある時はまず管理者に連絡し主治医から指示を受け適切な手当を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院の際安心できるように職員が付き添っている。(医療連携を図る)早期退院に向けて御家族や医療関係者と情報を共有し交換を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた時は再度家族の意向を確認し事業所で出来る事を職員間で共有し取り組んでいる。	入居時、重度化の看取り指針及び医療連携体制について説明し書面で同意を得ている。重度化した場合は再度家族から書面で同意を得ている。看取りを希望する場合は看取り介護計画に基づき、職員が連携して支援をしている。また、コロナ禍ではあるが、看取り時、希望する家族には寄り添っていただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防訓練や救急訓練等を行い、急変時や事故発生時に対応できるよう身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に昼夜想定し月一回の防災訓練を行っている。また年2回の総合訓練には地域との協力体制を築く関係性を保っている。	消防署立会による総合防災訓練を年2回実施し、年間防災訓練計画により、夜間想定・地震・風水害・消防設備等機器操作・情報伝達訓練等の自主訓練を行っている。また、水・レトルト食品・缶詰・ガスコンロ・ボンベ・防寒用具等を非常用備蓄品として備えるほか、利用者の災害への対応に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し思いをわかってあげられるようにしている。誇りやプライバシーを傷つけないように排泄時の声掛けには細心の注意を払っている。	利用者一人ひとりの生活史や経験を理解、尊重した対応やプライバシーの保護に努めるなど、利用者の立場に立った支援に日々取り組んでいる。個人情報を含む書類は、事務所の書庫で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室、入浴時などスタッフと一対一で接する機会を利用し思いや希望を聞いたり話しやすい雰囲気作りをしている。意思疎通が難しい方は仕草、表情を読み取り判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し自由に好きな事やしたい事など耳を傾けそれに添うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常、外出、入浴時の着替え時季節に合った服が選べるように声掛けをしている。重ね着をしている方には声掛けをして身だしなみに注意を払い対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節の食材でスタッフと一緒に作成したり洗い物等にも参加してもらっている。食事中も楽しく召し上がれるように雰囲気作りをしている。	コロナ禍で外食の制約を受けているが、近所からの野菜の差し入れを活用したり、行事食に希望を取り入れる等、食事に変化を持たせている。利用者は、職員とともに食事の準備や後片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態を把握し食事の形態、配膳を行い一日の水分量が確保できるように嗜好を理解する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯を洗浄したり、声掛けにて歯みがき、うがいを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し自立しているところは維持を目指し、出来ないところは介助を行い出来るだけトイレで排泄し気持ち良く過ごして頂けるよう支援している。	職員は、一人ひとりの生活習慣や排泄チェック表から排泄パターンを把握し、仕草や表情から排泄を察知している。羞恥心や不安、プライバシーに配慮してトイレへの声掛け・誘導を行い、利用者が可能な限りトイレでの自立排泄が継続出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝排便チェックを確認しラジオ体操への声掛けや水分摂取を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の入浴時のこだわりなどを把握し、入浴を嫌がる人にも声掛けの工夫をし入浴して頂けるように取り組んでいる。	入浴は、週2回を基本としているが、利用者の心身の状態や希望により入浴時間帯など配慮している。また、重度化のため安全面などを考慮し2名で介護支援を行っている。入浴中は会話を大切に、季節のゆず湯、菖蒲湯等で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとりの違うので習慣に合わせ、居室に戻り休息したり安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容や副作用を確認し、服薬時は利用者様の名前を他のスタッフに声を出し、利用者様の前で声を出し確認して頂き誤薬を予防している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声掛けにて洗濯物たたみや食器洗い、食器拭きを一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為地域の行事等は参加出来ないが各利用者の希望にそって散歩や日光浴等を行っている。	年間行事計画で、花見や紅葉狩り等ドライブでの外出機会を多く計画していたが、コロナ禍の現状なので、利用者の希望を聞き、近所の景勝地へドライブや散歩に出かけている。また庭での外気浴を採り入れ、気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所で管理している。コロナの影響で外出は控えているが本人の希望の品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモートを活用したり、コロナの為面会時ガラス越しではあるが電話で御家族様と話す事が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室全て毎日掃除や換気等を行ったり不快な刺激が無いように配慮している。季節を感じ居心地よく過ごせる様壁飾りなど工夫している。	季節感のある利用者の貼り絵や写真等を飾り四季が感じられるようにするとともに、音や光、温湿度、換気、衛生面の管理を職員が配慮し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を職員は把握し気の合う方と会話を楽しめるよう席など配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者一人ひとりの居室に馴染みの物、写真や思い出の品を見たり飾ったり本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者が安心して生活出来るよう家族と相談の上、馴染みのテレビやタンス、衣装ケース、椅子等を持ち込み、孫や家族の写真、刺し子等の手芸品を飾りその人らしく落ち着いた生活空間が整えられている。また、位牌や遺影等を持参している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの力量や状態に応じて安全に自立した生活が送れるよう居室内の家具やベットの配置等工夫している。		